

わかば会誌

第19号

2023.1

巻頭言

河北郡市医師会副会長

就任にあたり

河北郡市医師会副会長

金沢医科大学病院・副院長、高齢医学科教授

大黒 正志



新年明けましておめでとうございます。この度、河北郡市医師会副会長を拝命致しました大黒 正志と申します。私は、平成15年4月より金沢医科大学 高齢医学科助教としてお世話になっております。平成30年4月1日より金沢医科大学高齢医学科主任教授、令和2年4月1日より金沢医科大学病院副院長をさせていただいております。

高齢者救急、高齢者感染症、高齢者高血圧、高齢者の栄養管理、認知症、高齢者の脳血管障害、高齢者の心疾患などの研究活動を行っております。診療面では、当科の外来・入院診療のみならず、当院に救急搬送された高齢者への対応を積極的に行い地域医療に貢献しております。また、新型コロナウイルス感染症に対し、発熱外来における診察、新型コロナウイルス感染症病棟医長として病棟運営、コロナ患者の診療にも携わっております。

河北郡市医師会理事会に出席し、皆様の活発な発言や熱い議論を目の当たりにして河北郡市医師会の地域医療や医師会員への活動の重要性を再認識いたしました。病院連携担当理事をさせていただいておりますが、金沢医科大学病院を代表してパイプ役が果たせればと思います。最後になりますが、寄稿の機会をいただき河北郡市医師会の皆様に感謝いたします。まだまだ未熟者ですが、医師会の発展に努力する所存です。河北郡市医師会の諸先生方のさらなるご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



ご挨拶

医療法人社団 友夢会 たにぐち整形外科クリニック

谷口 友基



謹賀新年、旧年中は河北郡市医師会の方々に温かいご指導をいただき誠に感謝申し上げます。

津端町太田地区で整形外科、通所リハビリテーションを開業させていただいております谷口友基と申します。出身地である東京を離れ石川県で医者を目指してから早いもので37年経ちました。

平成6年、金沢医科大学病院整形外科教室に研修医として入局しその後、同大学院を経て能登地域の診療に従事。その後、ここ津幡町にご縁があり平成19年に、たにぐち整形外科クリニック、平成24年にはリハビリテーションうたきを開設し現在に至ります。2つの施設を開業し、これまで多くの事を学ばせていただいたこと、また周囲の皆様の御心遣いにはとても感謝しております。

ここで少し介護と医療の関係について私が日々感じたことをお話させていただきます。

介護施設を開設するきっかけは大学時代から懇親のあった先生との何気ない会話からでした。整形外科は介護とは密接な関係にある。津幡町は高齢者の患者も多いから整形外科併設の介護施設がもう少しあってもいいのに。とそんな話をしていました。

クリニックに来て下さる患者さんの中には高齢なため移動手段は家族に頼るか、近隣ならタクシー、家族に頼れない方は真夏や厳冬でも自転車やシルバーカーを押して来院されます。

交通手段がないばかりに生活に必要な機能訓練もできず自宅でこもりきりになっている患者さんを診ていて少しずつ介護の分野で地域社会への貢献が出来ればとの思いから介護施設の開設を決めたように思います。令和元年から要介

護者のリハビリが医療保険給付から介護保険給付の完全実施となりましたが患者さんやご家族は、こと介護に至ってはその現実、現状について当事者以外に理解されている方は少なく介護申請の方法もわからない方が多く見受けられます。

疾患が安定された後、機能改善のリハビリが必要で、特に移動手段がない方には送迎のある介護保険でのリハビリに移行する意義をご説明させていただいております。

ご高齢になられても、住み慣れた地域でいつまでも社会とのかかわりが持てる生き方が出来ますように今後も医療、介護の各分野で微力ながらもお手伝いできればと思っております。

最後に私が思う医療とは。

医師と患者さんの関係は人と人のつながりが基本と心し私達医師は病気やケガを治すというより治るための手助けをしているに過ぎないと考えています。実際、病気やけがに立ち向かう姿勢と気持ちをもたれている方は治りも早いように感じます。医療も、介護も任せるだけではなくその方自身の健康上の目標を持つことが大切。もちろん私自身にもあてはまりますが…。

では本年も皆様が心豊かな1年になりますように。

これからもご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



とりとめもなく、父のことなど

政岡医院

政岡 裕之



九月の或る平日の昼下がり、診療所の応接室で、私は頭を抱えて悩んでおりました。今回、わかば会誌に何か書いてほしいとの依頼があったからです。内容は何でもよい、との事でしたが、元々文才などない私です。とにかく、何を書けばよいのか全く頭に浮かびません。そんな時、ふと横を見ると父の遺影と目が合ったのです。少し考えた末、父親について私なりの想いを書いてみる事といたしました。私の父、政岡尚實は今年の2月に亡くなりました。享年92歳、長生きしてくれたものと考えております。

そんな父と私ですが、決して良好な親子関係ではありませんでした。私が中学生になった頃より、将来の進路について意見が衝突します。当時の私には医学者になるつもりなど毛頭ありませんでした。そして私が大学受験に失敗し、浪人生となった頃にはかなり険悪な状況となってしまいました。そして私は実家を離れ東京の予備校に入学し、その後26年、東京で生活する事となります。その間、帰省する事僅かでした。多忙だった事もありますが、実家で父と衝突する事を無意識に避けていたのだと思います。

そんな私も平成19年に、父と一緒に政岡医院で働く事となります。母親の強い希望と高齢による父の体調不良がその理由です。しかし心配した通り、患者の治療方針や診療所の経営理念など様々に対立してしまいました。しかし、以前のように激しい口論になる事はありませんでした。私も年を重ね父と落ち着いて話し合える余裕ができたのだと思います。

そんなある日のことです。母親が倒れ長期入院となります。そしてこれが契機となり、以前より兆候はあったのですが父の認知症が急激に増悪していったのです。

認知機能の低下した父は行動が不穏となり、自宅での生活は困難で入院生活となりました。そして更に数年が過ぎた頃、すっかり性格が穏やかとなった笑顔の父がそこにいました。病室へ面会に行くと、いつも同じ事を繰り返し尋ねてきます。「元気か?」「病院はどうや?」「今何時や?」約30分ずうっとこの調子です。その時の父に以前の政岡医院院長や医師会長だった頃の面影はありません。それでも初めて私と父の間にゆったりとした家族の時間が流れていた、ような気がするのです。

そんな父も令和3年の2月に亡くなりました。その日、病院から俄かに発熱した、との連絡があり、その後数日の経過で旅立っていきました。

果たして私にとって父親とはどのような存在だったのでしょうか?それにあれほど父に反発していた私が結局医師となり、政岡医院を継承しているのはどうしてなんだろう?今、とりとめもなく自問自答しつつ日々を過ごしております。また、私が東京在住で不在であった頃の、元気な父の姿は私より河北郡市医師会の皆様がよりご存じであった事と思います。そんな皆様に感謝しつつ、この拙い原稿を結びたいと思います。

最後に妙な話ですが、今回の原稿を書き上げた後、父の遺影に報告しました。

「今度わかば会の会誌にあなた(父)のことが載るけどいいよね?」と。

勿論返事はありません。ただ、その時の父の写真がなんとなく笑っているような、それとも怒っているような……。

郡市内病院の



石川県立こころの病院

高田 省吾

あけましておめでとうございます。本年も何卒よろしくお願いたします。

石川県立こころの病院で精神科医として勤務している高田省吾と申します。河北郡市医師会の皆様には、日頃より大変お世話になっており、感謝申し上げます。

金沢大学附属病院、こころの病院、能登総合病院と勤務し、令和3年4月からこころの病院に戻ってきました。異動をすると新しい病院では自己紹介のときによく趣味を聞かれます。趣味はありませんと答えるのも興ざめするかと思ひ、これまでは高校から大学までしていたテニスと答えていたのですが、もう10年近くラケットを握っていないので嘘をついているようで心苦しくおもっていました。そこで、全くの未経験でしたが、金沢マラソンに応募したり、独学でピアノを練習したりと趣味作りに励みました。どちらもそれなりに形になったため、今では趣味を聞かれると堂々とマラソン、ピアノと答えることができます。しかし、ここ2年ほど全く練習し

ておらずそろそろ趣味としての有効期限が切れそうです。

近年はこどもの不登校や自殺、発達障害など様々なこどものこころの問題が社会的課題となっています。県内にも児童精神科外来がいくつかありますが、新規予約が3か月待ちという話もよく聞き、需要に追いつけていないのが現状です。当院では令和3年11月21日の病院の名称変更に合わせて、児童・精神科外来を開設いたしました。どうやら以前の『高松病院』は特に地元の方々からのイメージが悪いようです。そんな病院に受診してくれるのだろうかと不安でしたが、改名のおかげもあり、関係機関から紹介された方々やネットで調べて受診される方々など少しずつ人数も増え、新規受診の人数は外来開設前の2倍ほどになりました。地域の皆様のお役に立っていることを嬉しく思いますが、徐々に新患待機期間が長くなっていることや心理士の人数が少なくカウンセリングの要望には応えられていないことなど課題はたくさんあります。また、こどものこころの問題に対する支援には保護者や学校、その他支援機関との協力が不可欠であり、今後さらに連携を深めていく必要があると感じています。

少しでも地域の皆様のお力になれるよう尽力いたします。これからもご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願申し上げます。



二ツ屋病院

鶴山 祐子

初めまして。そして、あけましておめでとうございます。

私の名前は鶴山 祐子と申します。2016年4月金沢医科大学病院腎臓内科に入局し、2021年4月より二ツ屋病院に入職いたしました。河北郡医師会の先生方には以前からですが今後よりたくさんお世話になることと思ひます。

出身は福井県、大学は東京女子医科大学に入学したため学生時代は都会生活も経験しましたが、田舎育ちのためか今は自然が多い石川の地で自然を存分に満喫しております。

私は育った環境や性格もあるのか具体的に想像がつかないまま小さな病院で地域医療に従事したいと学生の頃よりぼんやり考えておりました。まずは専門的なことがもちろん大事なのは重々承知で、医師という小さなくりを外して患者さんやご家族、医療従事者、病院内で働いている様々な職種の方含め色々な方々と垣根を越えてコミュニケーションを取りたかったのだと思ひます。ここ二ツ屋病院ではそんな温かい人達に恵まれて仕事ができていると感じます。

勤務医紹介



公立河北中央病院

原田 ゆかり

新年あけましておめでとうございます。公立河北中央病院内科に勤務しております原田ゆかりと申します。河北郡市医師会の先生方には日頃から地域連携を通し大変お世話になっており感謝申し上げます。

私は2012年から当院に勤務しており今年で10年目となります。医師会には2018に入会させていただきました。主に診療では糖尿病・代謝、内科全般の患者様を診察しています。当院内科の常勤医は院長含め4人です。そのため2人の金沢大学第一内科からの医師に助けられ、また新しい刺激等もうけながら日常診療を続けております。病院関連としましては前



また、二ツ屋病院の外来を受け持たせていただいから80、90歳（たまに100歳を超えた方もいらっしゃる）の方々一人で自立して生活している方もいらっしゃるれば、一方で60歳でもベッド上で入院生活を送っている方もいらっしゃる。そして、本人と家族の関係やそれぞれの考え方も千差万別であり、どれがいいということは全くなくどういう医療がその人にとって最善か、逆にいらない医療なのか、正解も多種多様に存在しているなど感じます。その中で自分の判断が良かったのかなと思うこともあれば、反省することも毎日多々あり、、そういった中で自分の経験値に幅が広がっていく、様々な経験をさせてもらっているこの環境・二ツ屋病院に従事できて大変ありがたいなと感じています。

寺崎院長に続く瀧崎院長主導での積極的な新型コロナウイルス対応や河北中央医療連携の会の開催の継続、令和4年11月11日にはオンラインも利用し第21回目が開催されました。院内多職種協働の推進におきましては糖尿病重症化予防や透析予防指導等に携わってきました。透析予防指導の件数自体は維持していますが、院内でのチームの育成や院外との積極的な連携をすすめる必要性など種々の課題も抱えています。

最後に私自身に関してですが出身大学は金沢医科大学で出身地は岩手県花巻市です。大学卒業後地元の岩手医科大学第一内科に入局し、大学病院、県立病院等での勤務歴等もありますがその後金沢大学第一内科同門に属し関連病院、現在当院勤務となっております。故郷の花巻といえば私的には宮澤賢治でしょうか。なかなか帰郷もできていない状況もあり賢治ワールドに浸ってみるのもいいかなと思っています。故郷の自然を感じることができるような気がします。

勤務医としての原稿の依頼でありましたがとりとめのない文面となってしまいましたことお許し下さい。

今後も地域の医療に貢献してまいりたいと存じます。河北郡市の先生方におかれましては今後とも御指導御鞭撻のほどよろしくお願い致します。

反対に、昔からすぐ勉強ができた訳ではなく医学書もよくフリーズしながら読んでおり、知識に関してはいつでも新人のような感覚で仕事しているので、今後も亀さんペースで頑張っていこうと思っています。今後かほく市内の病院の方々とも紹介状のやりとりや勉強会等で交流ができればと思っていますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

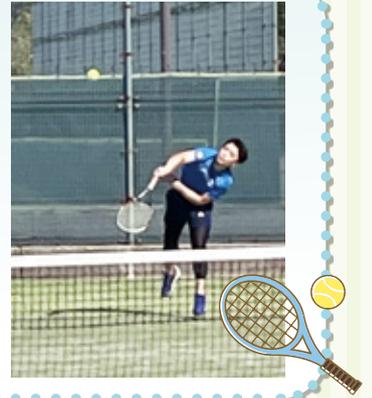


河北都市医師会テニス部

令和4年10月16日に西部緑地公園テニスコートにて医療人対抗テニス大会が3年ぶりに開催されました。河北都市医師会からは2チーム(3ペアで1チーム)参加しました。結果は満足できるものではありませんでしたが、秋晴れの下、清々しい汗を流し、スポーツで真剣勝負をする緊張感を徐々に感じる事ができた1日でした。

テニス部の活動は宇ノ気中学校のテニスコートにて、火木の週2回、PM7時30分～9時30分で行っています。人数がなかなか集まらないことが多いので参加者を募集しています。医師だけでなく病院勤務の方や介護施設職員、薬剤師さんなど医療介護関連の方ならどなたでも参加歓迎いたします。興味のある方は事務局に連絡お願いいたします。

(久保 隆之)



河北都市医師会の主な行事

(令和4年7月～令和4年の12月末まで)

1. 理事会・総会

令和4年7月21日(水) 第4回理事会
令和4年8月17日(水) 第5回理事会
令和4年9月21日(水) 第6回理事会
令和4年10月14日(金) 石川県医師会との懇談会

令和4年10月19日(水) 第7回理事会
令和4年11月16日(水) 第8回理事会
令和4年12月21日(水) 第9回理事会

2. 学術研修会

河北都市医師会学術講習会

令和4年7月14日(水)
演題：「金沢医科大学の带状疱疹治療
～ウイルスの基礎からワクチンまで～」
講師：金沢医科大学病院 皮膚科学講座 教授
清水 晶 先生

令和4年8月10日(水)
演題：「心不全発症・進展防止を見据えた2型糖尿病
治療戦略～広がるSGLT2阻害薬の可能性～」
講師：名古屋大学大学院医学系研究科
先進循環器治療学講座 特任教授
柴田 玲 先生

令和4年9月30日(金)
演題①：「慢性腎臓病(CKD)患者における糸球体血圧
を考慮した全身血圧管理～ARNIへの期待～」
講師：金沢医科大学 腎臓内科学 臨床准教授
藤本 圭司 先生
演題②：「血圧管理の重要性とCKD高血圧治療
～ARNIへの期待～」
講師：名古屋大学大学院医学系研究科
腎臓内科学 教授 丸山 彰一 先生

令和4年10月12日(水)
演題①：「産婦人科と関係する糖尿病」
講師：金沢医科大学 産科婦人科学 教授
笹川 寿之 先生

演題②：「新しい2型糖尿病治療薬
イメグリミンへの期待」
講師：北陸先端科学技術大学院大学 保健管理センター
センター長 教授 古川 健治 先生

令和4年11月9日(水)
演題：「潰瘍性大腸炎とクローン病のUp to Date」
講師：富山県立中央病院 消化器内科 部長
松田 耕一郎 先生

令和4年12月14日(水)
演題：「新たな視点から見た糖尿病性腎臓病
～予防、診断から治療まで～」
講師：新潟大学 腎・膠原病内科学 特任准教授
細島 康宏 先生

「救急医療週間」研修会

令和4年9月8日(木)
演題：「石川県の救急医療の希望
～ドクターカーと院内救命士の可能性～」
講師：金沢大学医薬保健研究域医学系
救急・災害医学分野 教授
岡島 正樹 先生

編集後記

明けましておめでとうございます。

今号よりわかば会誌編集委員を石倉先生より引き継ぎました。石倉先生、長い間ご苦勞様でした。巻頭言は金沢医科大学副院長の大黒先生からご寄稿頂きました。先生には理事会にも毎回参加して頂き有難うございます。今後益々、医師会との連携が深まればと思います。新理事の寄稿においては谷口先生の地域医療への熱い思いが伝わりました。政岡先生の寄稿からは親子関係の難しさを知りましたが、故政岡先生は今の先生を見て微笑んでいるのではないのでしょうか。

今号より河北郡市内の3病院の勤務医の先生のご寄稿を頂きました。それぞれの先生の人となりや病院への思いを知る事ができ、病院との距離が縮まった様に思います。

まだまだ、コロナ診療で大変ですが、今年こそはコロナ禍が終息することを期待します。

(久保 隆之)

会誌編集委員

久保 隆之、佐藤 宏和、谷口 友基
藤井 亮太、藤田 拓也、政岡 裕之